

独自技術で軟こう剤

ジャパニック メディック 乾燥肌用3製品投入

外用剤メーカーのジャパニックメディック(富山市横越、前田和也社長)は、ヘパリン類似物質を軟こう剤に配合する独自技術を生かし、乾燥肌用のOTC(薬局・薬



店向け)医薬品3製品を相次いで市場投入した。初年度は合わせて1億円の売り上げを見込む。

保湿作用があるヘパリン類似物質を含む乾燥肌用治療薬はこれまでクリーム剤や液剤が一般的。軟こう剤は皮膚を保護する力が強いものの、軟こう剤の基剤であるワセリンにはヘパリン類似物質が溶けないため商品化は難しかった。そこで同社は、ヘパリン類似物質を一度グリセリンに溶かした後、ワセリンと配合する独自の技術を用いることによって商品化に成功

.....
ジャパニックが市場投入した乾燥肌用の軟こう剤

した。
3商品は▽ドラッグストア大手のマツモトキヨシと

共同開発した「ヒルメナイド軟こう」▽ライオンが発売元となる目元・口周りの乾燥を防ぐ医薬品「フェルゼアプレミウムHPバーム」▽ロート製薬を通じて販売を行う乾燥荒れ肌治療薬「メンソレータムアレヒット」。いずれもヘパリンを含む医薬品の需要が高

まる秋冬シーズンに合わせ、市場に投入した。ジャパニックは本社横に液剤工場と倉庫を建設しており、2023年初めの稼働を見込む。現在の液剤製造ラインは新工場に移転させ、既存工場では軟こう剤の生産ラインを増強する計画だ。